

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-247726
(43)Date of publication of application : 11.09.2001

(51)Int.Cl.

C08L 23/02
A01N 59/16
A47K 3/02
A47K 4/00
C03C 12/00
C08K 3/22
C08K 3/40
E03D 11/02
E03D 13/00

(21)Application number : 2000-292962

(71)Applicant : ISHIZUKA GLASS CO LTD

(22)Date of filing : 26.09.2000

(72)Inventor : NOMURA MAKIO

(30)Priority

Priority number : 11375577 Priority date : 28.12.1999 Priority country : JP

(54) GLASS COMPOSITION FOR IMPARTING ANTIFUNGAL PROPERTY, AND ANTIFUNGAL POLYMERIC COMPOSITE MATERIAL

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a glass composition for imparting antifungal properties having high persistence with a small amount added, and an antifungal polymeric composite material using the glass composition.

SOLUTION: This glass composition for imparting antifungal properties contains at least Ag and the composite material obtained by composing the glass composition for imparting antifungal properties on a polymeric substrate satisfies $\geq 0.5 \text{ ng/cm}^2/\text{day}$ eluted amount of Ag from the composite material when immersed in distilled water at 25° C for 24 h after subjected to immersing treatment in distilled water at 90° C for 16 h. The antifungal polymeric composite material composed by dispersing the glass composition for imparting antifungal properties in the polymeric substrate and/or fixing the glass composition on the surface of the polymeric substrate exhibits excellent persisting effects of antifungal properties when especially used at places equipped with water supply such as a kitchen, a bathroom and a toilet.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C) 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-247726

(P2001-247726A)

(43)公開日 平成13年9月11日 (2001.9.11)

(51)IntCl⁷
C 08 L 23/02
A 01 N 59/16
A 47 K 3/02
4/00
C 03 C 12/00

識別記号

F I
C 08 L 23/02
A 01 N 59/16
A 47 K 3/02
4/00
C 03 C 12/00

テ-マ-ト(参考)
2 D 0 3 2
A 2 D 0 3 9
4 G 0 6 2
4 H 0 1 1
4 J 0 0 2

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 8 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2000-292962(P2000-292962)
(22)出願日 平成12年9月26日 (2000.9.26)
(31)優先権主張番号 特願平11-375577
(32)優先日 平成11年12月28日 (1999.12.28)
(33)優先権主張国 日本 (JP)

(71)出願人 000198477
石塚硝子株式会社
愛知県名古屋市昭和区高辻町11番15号
(72)発明者 野村 牧夫
愛知県名古屋市昭和区高辻町11番15号 石
塚硝子株式会社内
(74)代理人 100095751
弁理士 曽原 正倫

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 抗菌性付与用ガラス組成物、及び抗菌性高分子複合材料

(57)【要約】

【課題】 少量の添加量で、高い耐久性を備える抗菌性付与用ガラス組成物、及びそれを用いた抗菌性高分子複合材料を提供する。

【解決手段】 本発明の抗菌性付与用ガラス組成物は少なくともA gを含有し、高分子基質に該抗菌性付与用ガラス組成物を複合化した複合材料を、90°Cの蒸留水に16時間浸漬処理した後で、25°Cの蒸留水に24時間浸漬させたときの、該複合材料からのA gの溶出量が、0.5ng/cm²/day以上を満たす。また、このような抗菌性付与用ガラス組成物を、高分子基質中に分散、及び/又は該基質表面に定着することにより複合化させた抗菌性高分子複合材料は、特に台所、浴室、トイレ等の水周りで用いた場合に、優れた抗菌性持続効果を発揮する。

1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくともAgを含有する抗菌性付与用ガラス組成物であって、

高分子基質に該抗菌性付与用ガラス組成物を複合化した複合材料を、90°Cの蒸留水に16時間浸漬処理した後で、25°Cの蒸留水に24時間浸漬させたときの、該複合材料からのAgの溶出量が、0.5ng/cm²/day以上であることを特徴とする抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項2】 少なくともAgを含有する抗菌性付与用ガラス組成物であって、

高分子基質に該抗菌性付与用ガラス組成物を複合化した複合材料を、濃度0.5~10重量%の界面活性剤及び/又はキレート剤の水溶液に8時間浸漬処理した後で、25°Cの蒸留水に24時間浸漬させたときの、該複合材料からのAgの溶出量が、0.5ng/cm²/day以上であることを特徴とする抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項3】 P₂O₅が30~60mol%、B₂O₃が2~40mol%、MgO、CaO、ZnOから選択される1種又は2種以上のものが1~50mol%含有される請求項1又は2に記載の抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項4】 Al₂O₃が15mol%以下の範囲で含有される請求項1ないし3のいずれかに記載の抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項5】 Li₂O、Na₂O、K₂Oから選択される1種又は2種以上のものが15mol%以下の範囲で含有される請求項1ないし4のいずれかに記載の抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項6】 Ag₂Oが0.1~5.0重量%含有される請求項1ないし5のいずれかに記載の抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項7】 平均粒径が0.1~55μmの粒子形態にて前記高分子基質に含有される請求項1ないし6のいずれかに記載の抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項8】 前記高分子基質はポリオレフィン系熱可塑性樹脂又はポリオレフィン系熱可塑性エラストマーである請求項1ないし7のいずれかに記載の抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項9】 前記高分子基質はポリプロピレンである請求項1ないし8のいずれかに記載の抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項10】 前記高分子基質に対して0.01~1.0重量%の割合で複合化される請求項1ないし9のいずれかに記載の抗菌性付与用ガラス組成物。

【請求項11】 請求項1ないし10のいずれかに記載の抗菌性付与用ガラス組成物を、高分子基質中に分散、及び/又は該基質表面に定着することにより複合化させたことを特徴とする抗菌性高分子複合材料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、抗菌性付与用ガラス組成物及び抗菌性高分子複合材料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、無機系抗菌剤、例えば銀を担持したリン酸ジルコニウム、銀ゼオライト、溶解性ガラス等を使用した抗菌樹脂製品が水周り製品として多く普及されている。

【0003】特に、溶解性ガラスは、制御された溶解速度を持つように、ガラスの物理的、化学的特性を考慮して組成を調整したガラスの総称であり、抗菌性を有する銀、銅、亜鉛化合物等を含有させたものは、数時間から数年の任意の期間にわたって定められた一定速度で、前記銀、銅、亜鉛イオンを溶出させることができるものとして知られている。そして、溶出した銀、銅、亜鉛イオンは、細菌や微生物の細胞壁へ吸着したり、細胞内に濃縮したりして、いわゆるオリゴジナミー作用によって細菌や微生物の生育を阻害し、抗菌作用を発揮するものである。この溶解性ガラスは、抗菌剤を使用するあらゆる分野で利用されており、合成樹脂製品や繊維製品等に複合させることも行われている。複合方法は、さまざまに開発されており、成形前の材料から練り込んで製品化したり、製品に後加工で抗菌性の溶解性ガラスを付着させたりすることも行われている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このような溶解性ガラス等の上記無機系抗菌剤を含む水周り製品（例えば抗菌樹脂製品）は、いずれも水や洗剤と接する機会の多いことから抗菌効果の持続性が保ちにくい。特に溶解性ガラスは、水温が高くなるとガラスの溶解量が多くなり、また、洗剤に晒されると、界面活性剤やキレート剤によりガラス中の特定成分が選択的に溶解され、抗菌持続性が劣るものとなる。そのため、高い添加量が必要とされるが、添加量を多くすると経済的にコスト高になるだけでなく、無機系抗菌剤に含有される銀等による変色の問題も生じやすくなり、製品の外観上好ましくない。

【0005】本発明の課題は、少量の添加量で、高い抗菌耐久性を備える抗菌性付与用ガラス組成物、及びそれを用いた抗菌性高分子複合材料を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段及び作用・効果】上記課題を解決するために、本発明の抗菌性付与用ガラス組成物の第1の構成は、少なくともAgを含有し、高分子基質に該抗菌性付与用ガラス組成物を複合化した複合材料を、90°Cの蒸留水に16時間浸漬処理した後で、25°Cの蒸留水に24時間浸漬させたときの、該複合材料からのAgの溶出量が、0.5ng/cm²/day以上であることを特徴とする。なお、単位(n g/cm²/day)は、1日当たりに高分子基質の1cm²から溶

50

とする A_g の量をナノグラムで示したものである（以下、同様）。

【0007】本発明の上記抗菌性付与用ガラス組成物においては、 A_g が抗菌性を示すための主たる成分であって、上記のような構成であるために、90°Cの蒸留水に16時間浸漬されても A_g の溶出量は低いものとなる。したがって、当該抗菌性付与用ガラス組成物を、特に台所、浴室、トイレ等の水周りで用いても、抗菌性は長い期間持続される。なかでも、本発明の抗菌性付与用ガラス組成物は、高い温度の水を使用する環境に晒される浴室に用いる場合、抗菌性持続効果を大いに発揮する。

【0008】なお、上記複合材料からの A_g の溶出量は、好ましくは0.5~8 ng/cm²/day、さらに好ましくは0.5~5 ng/cm²/dayであるのがよく、このような抗菌性付与用ガラス組成物はより一層、抗菌性持続効果が発揮される。

【0009】次に、本発明の抗菌性付与用ガラス組成物の第2の構成は、少なくとも A_g を含有し、高分子基質に該抗菌性付与用ガラス組成物を複合化した複合材料を、濃度0.5~10重量%の界面活性剤及び／又はキレート剤の水溶液に8時間浸漬処理した後で、25°Cの蒸留水に24時間浸漬させたときの、該複合材料からの A_g の溶出量が、0.5 ng/cm²/day以上であることを特徴とする。

【0010】第2の構成の抗菌性付与用ガラス組成物においても、 A_g が抗菌性を示すための主たる成分であって、上記のような構成であるために、濃度0.5~10重量%の界面活性剤及び／又はキレート剤の水溶液に8時間浸漬されても A_g の溶出量は低く、したがって、当該抗菌性付与用ガラス組成物を、洗剤が頻繁に使用される台所、浴室、トイレ、洗濯機の筐体、衣類の繊維製品（各種製品には、製品の材料基質に複合化して用いることが可能）等に用いても、抗菌性は長い期間持続される。

【0011】なお、第2の構成における上記複合材料からの A_g の溶出量は、好ましくは0.5~8 ng/cm²/day、さらに好ましくは0.5~5 ng/cm²/dayであるのがよく、このような抗菌性付与用ガラス組成物はより一層、抗菌性持続効果が発揮される。

【0012】また、上記高分子基質としてはポリオレフィン系熱可塑性樹脂又はポリオレフィン系熱可塑性エラストマー等を用いるのがよく、なかでもポリプロピレンを用いるのがよい。また、高分子基質に対する抗菌性付与用ガラス組成物の含有量は0.01~1.0重量%、好ましくは0.1~0.8重量%とすることができます。

【0013】上記抗菌性付与用ガラス組成物には、P₂O₅を30~60mol%、B₂O₃を2~40mol%、MgO、CaO、ZnOから選択される1種又は2種以上のものを1~50mol%含有させることができます。

【0014】上記各成分は、溶解性ガラス（ガラス組成物）として構成され、このような溶解性ガラスを抗菌性付与用ガラス組成物を含有させると、上記 A_g が任意の期間にわたって定められた一定速度で溶出され、該 A_g により例えば樹脂等の抗菌性付与対象材料に対して高い抗菌性を付与することが可能となる。そして、上記構成においては、特に耐水性を向上させるための成分として MgO、CaO、ZnO から選択される1種又は2種以上のもの（以下、これを耐水性付与用成分ともいう）

10 10を、当該抗菌性付与用ガラス組成物に1~50mol%含有させたため、抗菌性付与対象材料に対して少量の添加量で抗菌性付与効果を従来のものと同様程度に維持しつつ、耐水性を向上させることができて、特に水周りでの抗菌性持続効果が向上する。さらに、該耐水性付与用成分の含有量を1~50mol%としたため、耐洗剤性も十分に保持しており、特に台所、浴室、トイレ等の洗剤を頻繁に使用する場所での抗菌性持続効果が発揮される。

【0015】なお、上記耐水性付与用成分の含有量が1mol%未満の場合、溶解性ガラスの耐水性が十分に得られなくなり、該溶解性ガラスの溶解速度が速過ぎて、抗菌性付与用ガラス組成物の抗菌性持続効果が低下する場合がある。耐水性付与用成分の含有量が50mol%を超えると、溶解性ガラスの水に対する溶解速度が遅くなり、当該抗菌性付与用ガラス組成物の少量添加での抗菌効果が見込めなくなる一方、逆に、洗剤に対しては溶解速度が速くなり、洗剤に対する抗菌耐久性が見込めなくなる場合があり、洗剤に対する抗菌性持続効果が低下する場合がある。なお、耐水性付与用成分の含有量は好ましくは5~50mol%、さらに好ましくは25~50mol%とするのがよい。なお、場合によっては耐水性付与用成分の含有量は1~25mol%、もしくは5~24mol%とすることもできる。

【0016】次に、上記抗菌性付与用ガラス組成物に含有される各成分の臨界的意味を以下に説明する。

【0017】P₂O₅ は溶解性ガラスにおいてガラス形成の主成分となる。P₂O₅ の含有量が30mol%未満の場合、溶解性ガラスのガラス化が困難になる場合がある。P₂O₅ の含有量が60mol%を超えると、溶解性ガラスの耐水性が著しく低下したり、当該抗菌性付与用ガラス組成物を樹脂等の抗菌性付与対象物に微粉碎化して複合化させる場合に、微粉碎化させる工程において吸湿性が生じ、2次凝集により微粉碎が不可能となる場合がある。なお、P₂O₅ の含有量は好ましくは35~60mol%、さらに好ましくは35~55mol%とするのがよい。

【0018】B₂O₃ は溶解性ガラスにおいて上記P₂O₅ に次ぐガラス形成の成分となる。B₂O₃ の含有量が2mol%未満の場合、溶解性ガラスの溶解速度が遅く、少量での抗菌効果が見込めなくなる場合がある。B

zO_3 の含有量が 4.0 mol% を超えると、溶解性ガラスのガラス化が困難になる場合がある。なお、 B_2O_3 の含有量は好ましくは 5~35 mol%，さらに好ましくは 5~30 mol% とするのがよい。

【0019】次に、本発明の抗菌性付与用ガラス組成物には、 Al_2O_3 を 1.5 mol% 以下の範囲（下限値としては 0.1 mol%）で含ませることができ。 Al_2O_3 を含ませると耐水性、耐洗剤性が一層向上する。 Al_2O_3 の含有量が 1.5 mol% を超えると、溶解性ガラスのガラス化が困難になる場合がある。なお、 Al_2O_3 の含有量は好ましくは 0.1~1.2 mol% とするのがよい。

【0020】また、本発明の抗菌性付与用ガラス組成物には、 Li_2O 、 Na_2O 、 K_2O から選択される 1 種又は 2 種以上のもの（以下、これをガラス化促進成分ともいう）を 1.5 mol% 以下の範囲（下限値としては 0.1 mol%）で含ませることができ。上記ガラス化促進成分は、溶解性ガラス（ガラス組成物）のガラス化を容易化するものではあるが、1.5 mol% を超えると、ガラス組成物（溶解性ガラス）の水に対する溶解速度が速くなり、抗菌性持続効果が低下する場合がある。なお、ガラス化促進成分の含有量は好ましくは 0.1~1.0 mol% とするのがよい。

【0021】一方、抗菌性付与用ガラス組成物には、 Ag 成分として Ag_2O 换算で 0.1~5.0 重量% 含有させることができ。 Ag_2O の含有量が、0.1 重量% 未満の場合、当該抗菌性付与用ガラス組成物の抗菌性付与対象材料への少量添加での抗菌効果が得られなくなる場合がある。また、 Ag_2O の含有量が、5.0 重量% を超えると、抗菌性付与対象材料（複合化された結果としての抗菌性製品）に変色が生じる場合がある。なお、 Ag_2O の含有量は好ましくは 0.3~3.5 重量%、さらに好ましくは 0.5~3.0 重量% とするのがよい。

【0022】以上のような構成の抗菌性付与用ガラス組成物は、微粉碎化して粒子形態とし樹脂等の抗菌性付与対象材料（高分子基質）に複合化するのがよく、その場合、平均粒径を 0.1~5.5 μm とすることができる。平均粒径が 0.1 μm 未満の場合、粒子の製造が困難になる場合がある他、抗菌性付与対象材料へ複合化した場合に偏在が生じ、複合を均一にできない場合があるため、抗菌性付与効果が低下したり、抗菌性付与対象材料（複合化された結果としての抗菌性製品）の性能が特にその偏在領域において低下したりする場合がある。また、平均粒径が 5.5 μm を超える場合、抗菌性付与対象材料の特性が低下したり、抗菌性付与対象材料（抗菌性製品）が外観不良を起こしたりする場合がある。なお、平均粒径は好ましくは 0.5~5.5 μm 程度にするのが

よい。

【0023】なお、平均粒径の測定は、例えばレーザー回折式粒度計を用いることができる。この場合、レーザー回折式粒度計による測定では、入射レーザー光の凝集粒子による回折挙動と、孤立した一次粒子による回折挙動とで大きな差異を生じないため、測定された粒径が、一次粒子単体で存在するものの粒径なのか、あるいはこれが凝集した二次粒子の粒径なのかが互いに区別されない。したがって、該方法で測定した平均粒径は、凝集を起こしていない孤立した一次粒子も広義に含めた二次粒子の平均粒径を反映した値となる。

10

20

20

30

30

40

40

【0024】次に、本発明の抗菌性高分子複合材料は、上記のような抗菌性付与用ガラス組成物を、高分子基質中に分散、及び／又は該基質表面に定着することにより複合化させたことを特徴とする。このような抗菌性高分子複合材料は、抗菌性付与用ガラス組成物が少量添加であっても、特に水周りでの抗菌性持続効果が向上する材料となる。なお、高分子基質中に対する抗菌性付与用ガラス組成物の複合量は、0.01~1.0 重量% とすることができる。該複合量が、0.01 重量% 未満の場合、抗菌効果の持続性が得られなくなる場合があり、また、1.0 重量% を超えると、抗菌性高分子複合材料の高分子特有の性質が低下したり、抗菌性高分子複合材料が外観不良を起こしたりする場合があるほか、コスト高となる問題が生じる場合がある。該複合量は好ましくは 0.03~0.8 重量%、さらに好ましくは 0.1~0.8 重量% とするのがよい。

【0025】このような抗菌性高分子複合材料を所定の形状に成形し、抗菌性高分子複合材料成形体を得ることもできる。この場合、当該成形体を上記高分子基質の軟化を伴う再成形を前提としない、最終成形体として構成したり、あるいは該高分子基質を軟化させて所期の二次形状に再成形するための仮成形体（いわゆるマスター パーチ）等として構成したりすることができる。

【0026】

【実施例】 P_2O_5 、 B_2O_3 、 Al_2O_3 、 MgO 、 CaO 、 ZnO 、 Li_2O 、 Na_2O 、 K_2O を表 1 に示す各組成比（mol%）となるようにそれぞれ混合し、さらに、これに Ag_2O を表 1 に示す各重量比（重量%）にて混合し、これを電気炉にて 1300~1350 °C で 1 時間溶融した。その後、電気炉から溶融ガラスを取り出し、カーボン板上に流し出して自然放冷させた。放冷後、ロールクラッシャー、ボールミルを用いて平均粒径が約 8 μm となるように微粉碎化し、本発明に属する抗菌性付与用ガラス組成物（サンプル A~F）、及び比較例としてのサンプル G~I を得た。

【0027】

【表 1】

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
P ₂ O ₅ (mol%)	40	40	50	42	55	45	40	50	45
B ₂ O ₃ (mol%)	30	15	5	26	10	10	5	20	15
Al ₂ O ₃ (mol%)	8	—	2	4	5	—	2	7	2
MgO (mol%)	9	30	15	—	15	20	33	—	10
CaO (mol%)	—	15	15	—	10	15	10	10	10
ZnO (mol%)	9	—	13	23	—	10	10	10	10
Li ₂ O (mol%)	2	—	—	—	—	—	—	—	4
Na ₂ O (mol%)	2	—	—	5	2.5	—	—	3	4
K ₂ O (mol%)	—	—	—	—	2.5	—	—	—	—
Ag ₂ O (wt%)	2	1.2	3	1	0.5	2.5	2	5.5	0.05

【0028】得られた各サンプルA～Iと、樹脂としてポリブロビレン粉末あるいはペレットとを、表2（実施例）及び表3（比較例）に示す各配合量（樹脂に対して、各サンプル0.1～1.5重量%）にて混合し、その後、射出成形機に入れ、210°Cにて抗菌性テスト用サンプル形状に射出成形した。抗菌性テスト用サンプル形状は、長さ98mm、幅48mm、厚み2.0mmとした。

【0029】上記抗菌性テスト用サンプルを、耐水試験として90°Cの蒸留水に16時間浸漬処理し、その後、被浸漬処理サンプルをフィルム密着法で抗菌性試験した。すなわち、被浸漬処理サンプルに、大腸菌及び黄色ふどう状球菌を10⁵個含む1/50普通ブイヨンを滴下し、上からフィルムを密着させ、35°Cで24時間放置後洗い出し、SCD寒天培地にて培養して生菌数を計数した。

【0030】一方、耐洗剤試験として、上記抗菌性テスト用サンプルを市販の合成洗剤（商品名：トイレマジッククリン（花王株式会社製））に25°Cで8時間浸漬処理

した。その後、被浸漬処理サンプルを上記耐水試験と同様のフィルム密着法で抗菌性試験した。

【0031】また、耐光変色試験として、抗菌性テスト用サンプルをキセノンランプ450W/m²に200時間照射した後の、該抗菌性テスト用サンプルの変色度合を分光光度計にて色差（ΔE）を測定した。

【0032】さらに、抗菌性テスト用サンプルを、90°Cの蒸留水に10cc/cm²の割合で16時間浸漬処理し、その後25°Cの蒸留水に24時間浸漬させたときの、該抗菌性テスト用サンプルからのAgの溶出量（ng/cm²/day）を評価した。また、濃度8重量%の界面活性剤を含む洗剤（商品名：トイレマジッククリン（花王株式会社製））に10cc/cm²の割合で8時間浸漬処理し、その後25°Cの蒸留水に24時間浸漬させたときの、該抗菌性テスト用サンプルからのAgの溶出量（ng/cm²/day）を評価した。

【0033】

【表2】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	実施例 6
ガラス組成	A	B	C	D	E	F
樹脂への添加量 (%)	0.1	0.2	0.1	0.5	0.8	0.2
耐光変色	○	○	○	○	○	○
耐水試験後の抗菌効果 大腸菌	○	○	○	○	○	○
耐水試験後の抗菌効果 黄色ぶどう状球菌	○	○	○	○	○	○
耐洗剤試験後の抗菌効果 大腸菌	○	○	○	○	○	○
耐洗剤試験後の抗菌効果 黄色ぶどう状球菌	○	○	○	○	○	○
90°C蒸留水浸漬試験 (ng/cm ² /day)	0.9	0.8	1.2	2.2	3.0	1.5
洗剤浸漬試験 (ng/cm ² /day)	1.0	0.5	0.5	1.8	3.5	1.5

【0034】

* * 【表3】

	比較例 1	比較例 2	比較例 3	比較例 4
ガラス組成	G	H	I	A
樹脂への添加量 (%)	0.5	0.1	1.0	1.5
耐光変色	○	×	○	×
耐水試験後の抗菌効果 大腸菌	○	○	×	○
耐水試験後の抗菌効果 黄色ぶどう状球菌	○	○	×	○
耐洗剤試験後の抗菌効果 大腸菌	×	○	×	○
耐洗剤試験後の抗菌効果 黄色ぶどう状球菌	×	○	×	○
90°C蒸留水浸漬試験 (ng/cm ² /day)	1.5	4.2	0.2	7.0
洗剤浸漬試験 (ng/cm ² /day)	0.3	5.5	0.3	8.0

【0035】なお、耐水試験及び耐洗剤試験後の抗菌性試験においては、抗菌性付与用ガラス組成物（サンプルA～1）を含まないポリプロピレン樹脂（標準サンプル）のフィルム密着法により計数された生菌数をX、実施例及び比較例のサンプルの生菌数をYとしたときに、X/Yの対数値が2以上の場合を○、2未満の場合を×として評価した。また、耐光変色試験においては、試験

前後の色差（△E）を測定し、1以下の場合を○、1を超える場合を×として評価した。

【0036】本発明に属する抗菌性付与用ガラス組成物（サンプルA～F）を樹脂に添加（複合化）した実施例1～6（表2参照）は、耐光変色、耐水試験後の抗菌効果、耐洗剤試験後の抗菌効果の全てにおいて優れた結果を示した。また、90°C蒸留水浸漬試験、及び洗剤浸漬

11

12

試験においても、実施例1～6（表2参照）は、A gの溶出量が $0.5 \text{ ng/cm}^2/\text{day}$ 以上という結果を示し、この各浸漬試験後において上記耐水試験及び耐洗剤試験後の抗菌性試験を行ったところ、X/Yの対数値が2以上を示した。なお、実施例2、3及び6に示すように、Li₂O、Na₂O、K₂Oのいずれをも含まないサンプルB、C、Fをガラス組成物として樹脂に添加した場合も、耐光変色、耐水試験後の抗菌効果、耐洗剤試験後の抗菌効果の全てにおいて優れた結果を示した。

【0037】一方、本発明外の比較例1～4は、各試験において劣な結果を示した。比較例1は、ガラス組成物としてMgO、CaO及びZnOの含有量が大きい（5.3mol%）サンプルG（表1参照）を用いたため、耐洗剤性が低下し、耐洗剤試験後の抗菌効果が小さいものとなった。

【0038】比較例2は、ガラス組成物としてAg₂Oの含有量が大きい（5.5重量%）サンプルH（表1参*

*照）を用いたため、耐光変色試験にて色差（ΔE）が1以上となった。また、比較例3は、ガラス組成物としてAg₂Oの含有量が小さい（0.05重量%）サンプルI（表1参照）を用いたため、抗菌効果が小さいものとなつた。

【0039】比較例4は、樹脂へのガラス組成物の添加量が多い（1.5重量%）ために、耐光変色試験にて色差（ΔE）が1以上となった。

【0040】一方、比較例1は洗剤浸漬試験において、比較例3は90°C蒸留水浸漬試験及び洗剤浸漬試験において、A gの溶出量が $0.5 \text{ ng/cm}^2/\text{day}$ 未満という結果を示し、この各浸漬試験後において上記耐水試験及び耐洗剤試験後の抗菌性試験を行ったところ、X/Yの対数値が2未満を示した。

【0041】なお、本明細書において「主成分」とは、特に断りがないかぎり、最も重量含有率の高くなる成分を意味するものとして用いた。

フロントページの続き

(51)Int.Cl.*

識別記号

マーク(参考)

C 0 8 K 3/22

F I

3/40

C 0 8 K 3/22

E 0 3 D 11/02

3/40

13/00

E 0 3 D 11/02

Z

F ターム(参考) 2D032 AB02 GA00
2D039 AA02 AA03 AA04 DB08
4G062 AA10 BB09 CC10 DA01 DB01
DB02 DB03 DB04 DC03 DC04
DC05 DD05 DD06 DE01 DE02
DE03 DE04 DE05 DF01 EA01
EA02 EA03 EA04 EA10 EB01
EB02 EB03 EB04 EC01 EC02
EC03 EC04 ED01 ED02 ED03
ED04 ED05 EE01 EE02 EE03
EE04 EE05 EF01 EG01 FA01
FA10 FB01 FC01 FD01 FE01
FF01 FC01 FH01 FJ01 FK01
FL01 GA01 GA10 GB01 GC01
GD01 GE01 HH01 HH03 HH04
HH05 HH07 HH09 HH11 HH13
HH15 HH17 HH20 JJ01 JJ03
JJ05 JJ07 JJ10 KK01 KK03
KK05 KK07 KK10 MM15 MM17
NN40
4H011 AA02 BA01 BB18 BC18 BC19
DA02 DD07 DH02
4J002 BB011 BB121 DE097 DL006
FD187 GL00